

社会科学習指導案

平成30年9月7日(金) 第2校時 1年E組教室
 授業学級 1年E組(40名)
 授業者
 指導教諭

1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」(鎌倉幕府の成立と執権政治)

2 主眼

源氏が滅んだ後も、鎌倉幕府が続いているの理由を考える場面で、幕府が行った政治に着目して、資料「鎌倉幕府の成立」「執権政治」を読み取ることを通して、将軍と御家人の主従関係によって成立した鎌倉幕府だったが源氏滅亡後も、有力御家人の北条氏が執権として権力を握り、政治を動かしていたことが分かる。

3 本時の位置(全5時間中 第3時)

前時: 武士政権の成立について考えた。

次時: 鎌倉時代の武士と民衆の生活について考える。

4 本時の評価規準

・将軍と御家人の主従関係によって成立した鎌倉幕府だったが源氏滅亡後も、有力御家人の北条氏が執権として権力を握り、政治を動かしていたことを説明している。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考
問題把握	1 資料を読み取り、学習問題を設定する。	ア 鎌倉幕府では源氏が将軍になっている。 イ 三代目の将軍までで源氏の家系は途絶えてしまっている。 ウ 幕府を開いた源氏の家系が途絶えたのにその後も鎌倉幕府が存在しているのはなぜだろう。	◇導入資料1を提示し、鎌倉幕府を開いた頼朝の家系が三代目将軍までで途絶えていることを示す。 ◇ウの様な発言を取り上げ、学習問題を設定する。	5分	導入資料1「源氏滅亡後も続く鎌倉幕府」
	2 学習問題に対して予想を立てて発表し、追究の見通しをもつ。	エ 源氏が滅んだ後もほかの勢力が将軍の地位を継いだのではないか。 オ 将軍に代わるような役職を作り、そこに源氏以外の人が就いたのではないか。 カ 源氏の遠縁の人を連れてきて、将軍として立てたのではないだろうか。 学習課題: 源氏が滅んだ後も、鎌倉幕府が続いているのだろう。	◇ワークシートを配付し、学習問題に対する予想を記入し、発表するように促す。 ◇予想で出た意見をもとに学習課題を設定する。	10分	
追	3 予想を明らかにするための資料を読み取り、分かったことを発表する。	キ 資料1から、源頼朝によって鎌倉幕府が成立したことが分かる。 ク 資料2から、鎌倉時代には将軍と御家人が御恩と奉公という主従関係にあり、相互関係にあったことが分かる。 ケ 資料3から、御家人をまとめた北条氏が執権政治によって実権を掌握したことが分かる。 コ 資料4から、承久の乱を経て、鎌倉幕府の影響力が西日本にも及んだことが分かる。 サ 資料5から、六波羅探題を設置することで幕府が朝廷を監視し行動を制限しようとしたことが分かる。 シ 資料6から、幕府が御成敗式目を設定することで武士独自の法を持ち、朝廷とは異なるという自信を持ち始めたことが分かる。	◇資料1～6を配付し、資料から読み取れることをワークシートに記入するように促す。 ◇机間指導を行い、それぞれの資料をどのように読み取っているかを確認しながら、指名計画を立てる。 ◇個別の資料を読み取れている生徒には関連している資料を線や矢印で結び関連付けて考えるように促す。 ◇生徒の意見から、鎌倉幕府が武士政権として成立し、執権政治を経て朝廷をも抑える存在になったことが分かるように整理しながら板書する。	25分	資料1「鎌倉幕府の成立」 資料2「御恩と奉公」 資料3「執権政治」 資料4「承久の乱」 資料5「六波羅探題の設置」 資料6「御成敗式目の設定」
	4 今日の学習を振り返り、分かったことをまとめる。	本時の評価規準に達していない生徒への手だて ①鎌倉幕府の制度が理解できない生徒には資料1、2を関連付けて共に考える。 ②朝廷を抑えるほどの鎌倉幕府の影響力について理解できない生徒には資料4、5を関連付けて共に考える。 ス 将軍と御家人の主従関係によって成立した鎌倉幕府だったが源氏滅亡後も、有力御家人の北条氏が執権として権力を握り、政治を動かしていたのだろう。 セ 鎌倉時代は武士が社会の中心にいるけれど、ほかの人々はどうなのだろう。	◇授業を振り返り、分かったことをワークシートに記入し、発表するように促す。 ◇本時で取り上げた武士だけでなく、民衆にも目を向けるようにして次時の授業につなげられるようにする。	10分	
まとめ					